

試験ブループリントガイド

Nutanix認定プロフェッショナル データベースオートメーション (NCP-DB) 6.10試験



目次

作成者	3
寄稿者	3
1. 試験	4
1.1 試験の目的	4
1.2 問題数	4
1.3 受験料	4
1.4 合格スコア	4
1.5 目標と試験問題の関連性	4
1.6 言語	4
1.7 制限時間	4
1.8 試験のスケジューリングおよび受験	5
1.9 認定トラック	5
1.10 再受験ポリシー	5
1.11 試験のセキュリティ	5
1.12 再認定	5
1.13 認定のメリット	6
2. 対象者	7
3. NCP-DB 6.10試験で対象となる目標	8
3.1 はじめに	8
3.2 目標	8
セクション1 - NDBソリューションのデプロイと構成をする	8
セクション2 - NDB実装内のアラートとストレージ使用状況を監視する	10
セクション4 - NDB環境の管理をする	15
4. NCP-DB 6.10トレーニングの推奨事項	19
4.1 コースの推奨事項	19
5. リソース	20
5.1 Nutanix Community Edition	20
5.2 テストドライブ	20
5.3 Nutanix Community	20
5.4 データベースオートメーションに関する追加リソース	20

作成者

Jeff Hall マネージャー - 技術認定開発

寄稿者

Andrei Patergin CTO - NewBeg, Inc.

David Teague テクニカルマーケティングエンジニア

Farrukh Muhammad アドバイザリーポートフォリオアーキテクト - NDB

Jeremie Moreau スタッフコンサルティングアーキテクト

Lochan Serma スタッフコンサルティングアーキテクト

Matthew Gauch シニアスタッフエスカレーションエンジニア

Mike Matthews アドバイザリーポートフォリオアーキテクト - NDB

Nikhil Bhingarde チームリード - システムエンジニアリング

Rajneesh Mishra シニアデータベースコンサルタント

Robbi Richmond アドバイザリーポートフォリオアーキテクト - NDB

Ron Trimble アドバイザリーシステムエンジニア - チャネルセールス

Samuele Gerutti アドバイザリーシステムエンジニア

Stephen Edge プリンシパルコンサルタント

Subramanian K スタッフエンタープライズアーキテクト

Sunny Kichloo シニアコンサルタント - データベース

Todd Howrilla アドバイザリーポートフォリオスペシャリスト - NDB

Varun Verma シニアソリューションアーキテクト

Venu Vuppalapati シニアスタッフグローバルプラクティスリード - データベース

免責事項:

Nutanix認定プロフェッショナル - データベースオートメーション (NCP-DB) 6.10試験ブループリントガイドは、NCP-DB 6認定資格を取得するために習得する必要がある目標の概要について説明します。本ガイドは、Nutanixが受験者のNCP-DB 6認定資格の取得を保証するものではありません。本ガイドの情報はすべて、Nutanixの単独の裁量により、随時変更される可能性があります。

1. 試験

1.1 試験の目的

Nutanix認定プロフェッショナル - データベースオートメーション (NCP-DB) 6.10試験は、Nutanixデータベースサービス (NDB) を使用したデータベースワークロードのデプロイと、管理、最適化、およびトラブルシューティングを実行する受験者の能力を評価します。これらのスキルと能力を習得していることを証明できます。

1.2 問題数

NCP-DB 6.10試験は、75問の選択問題（単一回答、複数回答）で構成されています。

1.3 受験料

NCP-DB 6.10試験の受験料は、199米ドルです。

1.4 合格スコア

この試験の合格スコアは3000です。スケールドスコア方式（換算方式の採点法）が用いられます。スコアのスケールは1000～6000です。スケールドスコア（換算スコア）は、試験のバージョンごとの試験問題の数と種類など、さまざまな要素を考慮した数式を使用して算出されます。

問題の数や種類は、同じ試験でもバージョンによって異なる場合があります。そのため、受けた試験のバージョンに基づいて、スケールドスコア（換算スコア）で全員に公平なスコアを提示します。

1.5 目標と試験問題の関連性

目標は、試験が何を評価することを目的としているかを要約したものです。目標は、Nutanixデータベースサービス (NDB) を使用したデータベースワークロードのデプロイと、管理、最適化、およびトラブルシューティングを実行する作業に関連して特定されたタスクに基づいて、試験開発者と対象分野の専門家によって策定されます。

最初の策定プロセスが完了すると、これらの目標は、外部の実務担当者のグループを用いて検証されます。最終的に、各目標に対する問題数が決定されます。目標ごとの問題数は、職務のタスクの重要度に直結しています。

1.6 言語

試験は英語で行われます。

1.7 制限時間

試験の制限時間は120分です。

1.8 試験のスケジュールリングおよび受験

この試験は、リモートの試験監督官によるリモートプロクタリング方式、または所定のテストセンターで受験する対面方式で実施されます。

リモートプロクタリング方式を選択する場合、試験に申し込み、有効な身分証明書を提示すると、各自の受験場所でウェブブラウザを使用して受験する方法について案内が送付されます。試験はリモートで監督されるため、ロックダウンされ、監視された、安全な受験環境が提供されます。

対面の試験を選択する場合、お近くのテストセンターを選択できます。試験当日は、政府機関発行の有効なIDを持参し、試験開始時間の15分前までにテストセンターにお越しください。

1.9 認定トラック

NCP-DB 6.10試験は、Nutanixデータベースオートメーショントラックのコアコンポーネントです。この試験に合格すると、NCP-DB 6の認定資格を取得することになります。

認定資格を取得するには、試験で合格スコアに達する必要があります。コースの受講は必須ではありませんが、Nutanixは、試験の目標を網羅するトレーニングを実施しています。推奨されるトレーニングコースの詳細は、[セクション4](#)をご覧ください。

1.10 再受験ポリシー

初回の受験で不合格となった場合、2回再受験できます。再受験まで7日間の待機期間が設けられています。初回の受験と同様に、試験ごとに受験料のお支払いが必要になります。再受験まで十分に準備の時間を確保し、最も合格を狙える状態で受験することをお勧めします。

注：3回受験すると、60日間受験できなくなります。その後、university@nutanix.com宛てにメールで連絡し、受験回数のリセットを要請することができます。

この間に、本ガイドと関連資料を十分に確認したり、推奨されるトレーニングを受講したりすることをお勧めします。

1.11 試験のセキュリティ

Nutanixは、試験のセキュリティポリシーに違反する受験者の認定を拒否する権利を留保します。試験教材を複製および再配布する、試験中に各種教材を使用する、試験問題を撮影しようと試みる、虚偽の身分証明書を使用して受験するといった行為が違反に該当します。受験者の身分証明書は、試験申し込みプロセスの一環として記録され、有効性が確認されなければ、受験は認められません。

1.12 再認定

Nutanix認定プロフェッショナル - データベースオートメーション 6.10試験に合格し、NCP-DB 6認定資格を取得すると、資格は2年間有効です。

認定のステータスを維持するには、既存の認定を更新するか、別の認定トラック内で同等のNCPレベルの試験に合格する、またはNCM-MCI試験に合格する必要があります

1.13 認定のメリット

- ソーシャルメディアで共有可能なCredlyのデジタルバッジ
- シャツやマグカップなどを購入可能なNutanixストア (<http://store.nutanix.com>) のCertificationショップへのアクセス
- 将来の試験の開発にSMEとして参加する機会
- Nutanix .NEXTの参加割引

2. 対象者

NCP-DB 6.10試験およびNCP-DB 6認定資格は、データベース管理の経験が約1~2年あり、同時にNutanixデータベースサービス（NDB）の経験が最低6ヵ月あるか、該当するトレーニングを受けている方を受験対象者として想定しています。

データベース管理者や、Nutanixの技術的従業員、Nutanixのチャネルパートナー、NutanixのOEMベンダー、およびデータベースのプロビジョニングと、パッチ適用、保護、およびクローニングができるNutanixの顧客などが一般的な合格者となっています。加えて、NDBのデプロイおよび構成と、データベースおよびデータベースサーバーVMの登録、データベースの復元、そして新しいNDBプロファイルの作成もできる必要があります。Nutanixデータベース管理（NDBA）コースなどのトレーニングコースを受講すれば、合格できる可能性は高くなります。

3. NCP-DB 6.10試験で対象となる目標

3.1 はじめに

受験者は、Nutanix認定プロフェッショナル - データベースオートメーション (NCP-DB) 6.10試験に挑戦する前に、Nutanixデータベースサービス (NDB) を使用したデータベースワークロードのプロビジョニングと、パッチ適用、保護、およびクローニングに必要な知識とスキルを身につけていることが推奨されます。また、受験前に、[セクション4](#)に記載されているトレーニングコースを完了することも推奨されます。

NCP-DB 6の認定資格では、受験者は以下のソフトウェアバージョンでテストを受けます。

- AOSとPrism : バージョン6.10
- Nutanixデータベースサービス : バージョン 2.6

3.2 目標

受験に先立って、受験者は以下の各目標を理解しておかなければなりません。各目標、受験者が使用経験を積んでおくべき関連ツール、目標と関連のある情報が記載された参考文書が以下に挙げられています。なお、一部の文書には、サポートポータルからアクセスする必要があります。サポートポータルで使用するアカウントの作成については、[こちら](#)をご覧ください。受験者は、関連するすべての製品文書を十分に把握しておくか、同等のスキルを身につけておく必要があります。

セクション1 - NDBソリューションのデプロイと構成をする

目標1.1 : NDB VMのデプロイをする

知識

- インストールウィザードのダウンロードと、インポート、作成、および実行をする
- コンソールを使用してNDB VMに静的IPアドレスを割り当てる

参考資料

- [NDBの開始](#)
- [NDBウィザードへようこそ](#)
- [AHVにおけるNDBのインストール](#)
- [ESXiにおけるNDBのインストール](#)
- [NDBネットワークの要件](#)
- [NDB制御プレーンの構成とスケーラビリティ](#)

目標1.2 : NDBインスタンスの構成をする

知識

- 必要なネットワークポートとセグメンテーションの決定と構成をする
- 管理UIへの接続を構成する
- 基本的な構成を実行する
 - 言語設定の変更をする
 - SSL証明書の構成をする
 - NDBサーバーのCLIからNTP/DNSを変更する
 - SMTPの構成をする

参考資料

- [コンソールを通じたNDB VMへの静的IPアドレスの割り当て](#)
- [NDBに必要なポートとプロトコル](#)
- [SSL証明書の構成](#)
- [IPアドレスの管理](#)
- [アラート通知のためのSMTPサーバーの設定](#)
- [DNSサーバーの構成](#)
- [言語設定の変更](#)
- [Nutanixクラスタの更新](#)

目標1.3 : NDB HAのデプロイと構成をする

知識

- HAを構成する
- サービスのレジリエンシーについて議論する
- 単一サイトおよび複数のNutanixクラスタのためにNDB HAをデプロイする

参考資料

- [NDBの高可用性の概要](#)
- [NDBのための高可用性の有効化](#)
- [NDBのマルチクラスタの有効化](#)

- [NDBを用いたNutanixクラスタの登録](#)
- [NDBのサービス管理](#)
- [NDBサービスのレジリエンシー](#)
- [Nutanixクラスタの管理](#)

セクション2 - NDB実装内のアラートとストレージ使用状況を監視する

目標2.1 : アラートを管理する

知識

- アラートを監視する
- アラートをクリアする
- 時間範囲をフィルタリングする
- ポリシーを設定する

参考資料

- [アラートポリシーの管理](#)
- [アラート保持の設定](#)
- [メール受信者へのアラート通知の送信](#)

目標2.2 : ストレージ使用状況の監視と管理をする

知識

- データベースソースとクローンサイズの特定をする
- データベースのストレージ効率を監視する
- スナップショットの数とサイズを監視する
- データベースのためにストレージをスケールまたは拡張する

参考資料

- [Oracleデータベースのスケールリング](#)
- [SQL Serverデータベースのスケールリング](#)
- [クローンの管理](#)

セクション3 - NDB環境の運用と保守をする

目標3.1 : データベースサーバVMとデータベースの登録をする

知識

- 前提条件の検証をする
 - WindowsまたはLinuxのVMを検証するためのスクリプトをダウンロードする
- OSとデータベースインスタンスの認証情報を提供する
- 登録するNutanixクラスタを選択する
- データベースインスタンスを発見する
- 1つ以上のデータベースを選択する
- データベースに接続するための認証情報を提供する
- NDB vs サードパーティのバックアップを使ってログの管理をする (SQL Serverのみ)

参考資料

- [前提条件のスクリプトのダウンロード \(GUI\)](#)
- [前提条件のスクリプトのダウンロード \(Linux\)](#)
- [登録済みデータベースサーバVMのIPアドレスの更新](#)
- [SQL ServerのデータベースサーバVMの登録](#)
- [SQL Serverのデータベースの登録](#)
- [Nutanixクラスタの管理](#)
- [データベースサーバVMの登録の前提条件チェック](#)
- [NDBIにおけるデータベースログのバックアップ管理](#)

目標3.2 : データベースのプロビジョニングをする

知識

- データベースエンジンの選択をする
- シングルインスタンスまたはHAインスタンスを選択する
- プロビジョニングするNutanixクラスタを選択する
- プロファイルを選択する
- データベースの名前とサイズを提供する
- Time Machineの構成をする

- SLAを選択し、スケジュールを定義し、Time MachineのバックアップのためのNutanixクラスタを選択する

参考資料

- [NDBのワークフロー](#)
- [NDBの前提条件](#)
- [Oracleデータベースのプロビジョニングの前提条件](#)
- [Oracleデータベースのプロビジョニング](#)
- [Oracleの現在の制限](#)
- [SQL Serverデータベースのプロビジョニング](#)
- [SQL Serverの可用性データベースのプロビジョニング](#)
- [PostgreSQLデータベースのプロビジョニング](#)
- [既存のPostgreSQLインスタンスへのデータベースの追加](#)
- [PostgreSQLのHAインスタンスのプロビジョニング](#)
- [PostgreSQLの高可用性（HA）サポート](#)
- [MongoDBデータベースのプロビジョニング](#)
- [NDBのTime Machine管理](#)
- [グループとしてのSQL Serverデータベース](#)

目標3.3：データベースとオペレーティングシステムのパッチ適用をする

知識

- [メンテナンスウィンドウの作成と関連付けをするタイミングと方法を決定する](#)
- [データベースのパッチ適用をする](#)
 - [ソフトウェアプロファイルのバージョンを作成する](#)
 - [ソフトウェアプロファイルのバージョンの公開/公開停止/非推奨をする](#)
 - [ベンダー固有のプロセスに従ってパッチをテストする](#)
 - [データベースのパッチを適用する](#)
 - [データベースのメジャーアップグレードとマイナーアップグレードを区別する](#)
- [OSのパッチ適用を実行する](#)
 - [OSにパッチを適用する](#)
 - [OSのパッチを管理する](#)

参考資料

- [オペレーティングシステムのパッチ適用](#)
- [ワンクリックパッチ適用](#)
- [PostgreSQL - ソフトウェアプロファイルのバージョンの更新](#)
- [Oracle - ソフトウェアプロファイルのバージョンの更新](#)
- [MongoDB - ソフトウェアプロファイルのバージョンの更新](#)
- [SQL Server - ソフトウェアプロファイルのバージョンの更新](#)
- [メンテナンスウィンドウ](#)

目標 3.4 : シナリオを踏まえ、NDBの操作のトラブルシューティングを行う

知識

- [アラートの分析をする](#)
- [操作ログのレビューと解釈をする](#)
- [診断バンドルを生成する](#)

参考資料

- [アラート通知](#)
- [操作ログの閲覧](#)
- [診断バンドルのダウンロード](#)

目標3.5 : データベースをクローンする

知識

- [クローンのためのビジネス要件を決定する](#)
- [クローンを作成する](#)
 - [リフレッシュスケジュールの構成をする](#)
 - [削除スケジュールの構成をする](#)
 - [既存のVMを認可する](#)
 - [作成前後のスクリプトの構成をする \(データマスキングや権限管理など\)](#)
 - [クローンのためのターゲットVMを決定する](#)
 - [手動スナップショットまたはポイントインタイム \(PIT\) から作成する](#)
 - [リモートクラスタからクローンする](#)

- クローンをリフレッシュする
 - リフレッシュスケジュールを管理する
 - 手動リフレッシュを実行する

参考資料

- [クローンの管理](#)
- [クローンのリフレッシュスケジュールの作成](#)
- [データベースのクローンのリフレッシュ（手動）](#)
- [SQL Serverデータベースのクローン](#)
- [単一ノードデータベースのクローンの作成](#)
- [データベースグループのクローンの作成](#)
- [既存のデータベースグループのクローンへのデータベースの追加](#)
- [データベースサーバーVMの認可](#)

目標3.6：ソースデータベースを復元する

知識

- [スナップショットから復元する](#)
- [ポイントインタイム（PIT）に復元する](#)
- [リモートクラスタから復元する](#)

参考資料

- [SQL Serverデータベースの復元](#)
- [PostgreSQLインスタンスの復元](#)
- [Oracleデータベースの復元ワークフロー](#)
- [Nutanix Objectsを使用したNDB](#)
- [オペレーティングシステムのパッチ適用](#)

目標3.7：Time Machineを管理する

知識

- [Time Machineの要件を決定する](#)

- スナップショットの数を決定する
- スケジュール保持ポリシーを決定する
- ポリシーに基づいてストレージ要件を決定する
- SLAの管理とカスタムSLAの作成をする
- データアクセス管理（DAM）ポリシーの管理をする
 - データアクセス管理ポリシーの作成をする
 - スナップショットとログをリモートクラスタにレプリケーションする
- データベースを保護する
 - SLAをデータベースに適用する
 - 手動スナップショットを作成する

参考資料

- [NDBのTime Machine管理](#)
- [Time Machineのスナップショットの保持とプロモーション](#)
- [Time Machineの動作と機能](#)
- [Time Machineのヒールスナップショット](#)
- [データのアクセス管理](#)
- [SLAの管理](#)
- [ビルトインSLA](#)
- [スナップショットの作成（手動）](#)

セクション4 - NDB環境の管理をする

目標4.1 : NDBプロファイルを管理する

知識

- プロファイルを作成する
 - ソフトウェア
 - コンピュート
 - ネットワーク
 - データベースのパラメータ
 - Windowsドメイン

- プロファイルのステータスを管理する（公開、公開停止、非推奨など）
- OOBソフトウェアのプロファイルを特定する
- ソフトウェアのプロファイルをリモートクラスタにレプリケーションする

参考資料

- [NDBのプロファイル](#)
- [ソフトウェアプロファイルのバージョンの更新](#)
- [ソフトウェアプロファイルの作成](#)
- [コンピュータプロファイルの作成](#)
- [ネットワークプロファイルの作成](#)
- [データベースのパラメータプロファイルの作成](#)
- [NDBネットワークの管理](#)

目標4.2 : NDBソフトウェアのアップグレードを実行する

知識

- NDBをアップグレードする
- NDBの手動アップグレードを実行する（ダークサイトでのアップグレードなど）

参考資料

- [NDBのアップグレード管理](#)
- [NDBのアップグレード（ワンクリックアップグレード）](#)
- [NDBのアップグレード（オフラインアップグレード）](#)
- [NDBリリースノートにおけるNotesのアップグレード](#)
- [ダークサイトにおけるOOBプロファイルの更新](#)

目標4.3 : NDBにNutanixクラスタを追加する

知識

- 以下のような前提条件を検証する：
 - バージョン
 - ネットワークの接続性
 - 認証情報

- IPアドレス
- クラスタを登録する
- マルチクラスタを有効化する
- ストレージコンテナの構成をする

参考資料

- [NDBウィザードへようこそ](#)
- [NDBを用いたNutanixクラスタの登録](#)
- [NDBのマルチクラスタの有効化](#)

目標4.4 : NDBでネットワークを管理する

知識

- NDB管理ネットワークを使用するタイミングを決定する
- NDB管理ネットワークを作成する
- VLANを追加する

参考資料

- [NDBネットワークの管理](#)
- [静的VLANへのIPアドレスの追加](#)
- [NDBへのVLANの追加](#)
- [AHV管理VLANのNDB管理としての追加](#)

目標4.5 : アクセス制御を管理する

知識

- Active Directoryと統合する
- 以下のように権限とロールを管理する :
 - カスタムロールを作成する
 - ユーザーとグループを作成する
 - ユーザーとグループをマッピングする
 - エンティティを共有する

参考資料

- [ロールベースのアクセス制御](#)
- [Active Directoryのアクセスの構成](#)
- [特権と権限](#)
- [ユーザーの追加](#)
- [ロールの作成](#)
- [ユーザーのロールの閲覧](#)
- [ユーザープロファイル設定の構成](#)

目標 4.6 : NDBのAPIとCLIを使用する

知識

- [適切なツールを選択する \(API ExplorerやAPI同等ボタンなど\)](#)
- [API同等ボタンを使用する](#)
- [CLIを使用する](#)
- [APIを使用する](#)

参考資料

- [NDBの初期構成](#)
- [REST API Explorerへのアクセス](#)
- [API同等ボタンを使ってPeer認証を有効化する](#)
- [NDBのセキュリティ](#)
- [NDBのGUIとCLI](#)

4. NCP-DB 6.10 トレーニングの推奨事項

4.1 コースの推奨事項

Nutanixは、試験でテストされる目標に関するトレーニングを実施するコースを提供しています。配信方法、価格など、本コースの詳細は、nutanix.com/trainingをご覧ください。

コースの詳細は以下のとおりです。

Nutanix®データベース管理 (NDMA) コースでは、Nutanixデータベースサービス (NDB) のインストールと、構成、操作、および管理に必要なスキルを学習します。

NDMAのコースでは、以下のような多くのテーマを学びます：

- サービスとしてのデータベース (DBaaS) の内容と、方法、理由、および利点。
- コピーデータの管理や、Time Machine、プロビジョニングプロファイル、およびデータアクセス管理といったNDBの重要な用語と概念。
- ロールベースのアクセス制御 (RBAC) の実装 (組み込みおよびカスタムのロールとの連携や、ユーザーおよびグループの管理を含む)。
- NDBへの複数のクラスタの追加と、Nutanix Guest Toolsとの連携、およびNDBへのNutanixクラスタの登録。
- アラートポリシーと、通知、およびログ収集を使用したNDBに関する問題の監視および調査。
- スナップショットの作成や、データベースのクローン作成、ログキャッチアップ操作、クローンのリフレッシュ、およびソースデータベースの復元など、データベースの保護と復元に関わる操作。

本コースは、オンラインで受講できます。またはインストラクターによるトレーニングを受講できます。スケジュールや申し込み方法などの詳しい情報は、www.nutanix.com/universityをご覧ください。

5. リソース

5.1 Nutanix Community Edition

Nutanix Community Editionは、Nutanixクラウドプラットフォームをデプロイできる無料の製品です。試験の準備をするために、ソフトウェアをダウンロードし、ご自身の環境を構築するには、[こちら](#)をクリックしてください。

5.2 テストドライブ

[こちら](#)をクリックして、Nutanix Community Editionを活用するハイパーコンバージドテストドライブを2時間使用することもできます。

5.3 Nutanix Community

Nutanix Communityで世界中のクラウドビルダーとつながり、業界のITプロフェッショナルから学んで、経験を共有しましょう。Nutanix Communityに、Nutanix認定資格専用のページがあります。[こちら](#)からアクセスできます。

5.4 データベースオートメーションに関する追加リソース

その他のデータベースオートメーションに関する豊富なリソースは[こちら](#)からご覧いただけます。

NUTANIX

+1 (855) 688-2649 | certification@nutanix.com | www.nutanix.com

©2025 Nutanix, Inc. All rights reserved. Nutanix、Nutanixのロゴ、および本書に記載されているすべての製品名とサービス名は、米国およびその他の国におけるNutanix, Inc.の登録商標または商標です。

本書で言及されているその他すべてのブランド名は、識別のみを目的としており、各所有者の商標である可能性があります。